

## 第5回「新・関西観光・文化振興計画（仮称）」策定委員会 要旨

日 時：2022（令和4）年1月17日（月） 9：00～11：00  
場 所：大阪国際会議場8階会議室  
出席者：坂上座長、北村委員、橋爪委員、東井委員、岡部委員（web参加）、  
木ノ下委員（web参加）、平井上席調査役（文化庁からオブザーバー参加）  
角谷観光部長（近畿運輸局からオブザーバーweb参加）

次 第：1 開会  
2 議事  
（1）報告  
①中間案へのご意見に対する関西広域連合の考え方について  
②最終案（素案）について  
（2）意見交換  
3 その他  
4 閉会

### 1 開会

- ・ 野口局長挨拶

### 2 議事

#### （1）報告

##### ①中間案へのご意見に対する関西広域連合の考え方について

－事務局（嘉住参事）説明－

##### ②最終案（素案）について

－事務局（嘉住参事）説明－

#### （2）意見交換

橋爪委員

- ・ 大阪湾ベイエリアで今後、万博と連携した舟運などの事業が出てくる。淀川の舟運も今後5年間で具体化する予定。これを踏まえて、どこかに舟運、あるいは多様な交通機関を使って周遊する、といった表現を記載してはどうか。なお、表現については各主体で異なるので、整理が必要である。
- ・ 自然公園法の一部改正に伴う自然公園の利活用について、どこかで意識しておいてはどうか。
- ・ 現状、博物館やミュージアムの連携が弱い。これに関して、テーマ観光についての提案があってもよいのではないか。京都で国際会議（第25回 ICOM [国際博物館会議] 京都大

会 2019) が開催された経緯もある。

- ・ 万博については、首長連合が設立され、万博を契機とした横連携の仕組みが開始された。この計画に盛り込むかどうかは別にして、計画期間中のメルクマール(中間目標)として、関西以外の全国との連携も想定しておきたい。
- ・ 万博が開催される 2025 年は阪神淡路大震災から 30 年。ボランティアツーリズムや防災意識などとの関係では、広域連合の防災分野だけの検討ではなく、観光・文化分野でも意識しておいてほしい。
- ・ 2025 年は昭和 100 年にもあたる。2025-2026 年には節目としてイベント・事業が展開される可能性がある。計画に盛り込まなくてもよいが、意識しておいてほしい。

田中次長

- ・ ミュージアム連携については、河内委員からも大学のミュージアム連携を含めて推進することが関西の魅力向上につながるとの意見をいただいております、盛り込むとともに、ミュージアムパスポート等について検討しており、具体化を図りたい。

橋爪委員

- ・ 90 年代に多くの博物館等が建設され、その建て替え時期が来ている。計画に盛り込む必要はないが、各自治体の施設リニューアルへの支援について意識しておいてほしい。

野口局長

- ・ 舟運については素案に盛り込んだという考え方だが、万博の海洋活用に比べると弱く映るかもしれない。表現の工夫を考えたい。

嘉住参事

- ・ 素案の「戦略 1 (3)「広域ルート」など広域周遊に関する取組」に含めたという考えだが、ご指摘を踏まえて表現を検討したい。

角谷観光部長

- ・ ベイエリアクルーズの振興策や河川の舟運については、順次、実証実験などが進む予定になっている。近畿運輸局としても、こうした動きと一緒に取り組んでいきたい。
- ・ 河川の舟運については、近畿地方整備局で進める河川改修などのインフラ整備と連携し、観光にも活用していきたい。
- ・ まだ具体化まではいかないが、今後、こうした様々な動きを加速させたい。

坂上座長

- ・ 計画にご指摘のニュアンスの追加を検討してほしい。

東井委員

- ・ 14 頁の「ワールドマスターズゲーム (以下WMG)」は 2026 年で決定なのか。まだ正式には決まっていないという情報もある。
- ・ 同頁の最下段、「はなやか関西」をブランドイメージのコア・コンセプトとしているが、はなやか関西は例示であって、他にもコンセプトにすべきものはあるのではないか。
- ・ 15 頁 (3) -①にある「文化の道」事業とはどんな事業か。
- ・ 16 頁戦略 2 - (1)にある「全国基準のデータ蓄積・分析ができる体制の構築」とはど

んなイメージか。

嘉住参事

- ・ WMGの再延期による開催時期はまだ確定していない。2026年に限定した書き方に問題があれば、表現を変更したい。改めて情報を確認する。

東井委員

- ・ 20頁では「万博の開催後に予定されているWMG」となっているが、もう少し幅を持たせた表現にしてもよいのではないか。

坂上座長

- ・ 方向が固まれば、表現方法を工夫してほしい。

岩田参事

- ・ 「文化の道」事業は、人形浄瑠璃などの文化資源をテーマとして、冊子やデジタルブック、講演会等で情報発信・ルート化を進める既存の取組である。今後も古墳などの資源をストーリーやテーマでつなぐなど、広域周遊につながる情報発信を継続していきたい。

東井委員

- ・ 当本部としてもそうした取組があるなら、サポートしていきたい。

嘉住参事

- ・ 「全国基準のデータ蓄積・分析」については、現在、観光分野ではマーケティングに活用するデータを個々の地域・組織が収集・分析しており、関西圏や日本全体としての人の流れ等が十分に確認できないという状況があり、こうした情報が集約的に把握できるよう、国に対して全国的なフォーマットの構築及び仕組みづくりが要望されている（公益社団法人 日本観光振興協会）。広域連合としても、同様に国に対して要望していきたい。

東井委員

- ・ 大事な話題であり、ぜひ力を結集してほしい。
- ・ 20頁の推進体制については主語がなく、広域連合の姿が見えない。「関西ツーリズムブランドデザイン」では「one 関西」を掲げ、関西観光本部はその実行部隊としてマーケティングやプロモーションの役割を担うものと理解しており、地域づくりの中心にはなれない。もう少し丁寧に、例えば広域連合の役割を書くなど、広域連合の立ち位置や役割を想起できるようにしてほしい。

坂上座長

- ・ リーダーシップの発揮が求められるのだろうが、広域連合としては最大公約数的なものが求められる役割から、どうしても抽象的な表現になる。

東井委員

- ・ 要するに、この計画の責任主体はどこかということ。主体があって、ブランドデザインとの関係性が明らかになることで取組が進められる。

野口局長

- ・ 基本的に主語は広域連合である。但し、予算や構成員との関係もあり、連携や協力を中心に記載しているが、これでは表現として弱い。

- ・ 観光・文化資源を発掘し、磨くのは構成府県市であり、基礎自治体である。それをとりまとめ、知見の共有化を図るのが広域連合の役割となる。観光本部の力を借りながら、世界に向けてそれをどのように発信していくかが取組となる。

東井委員

- ・ 主語を書けという主旨ではなく、どうした表現にすればいいか、議論させていただければ。

嘉住参事

- ・ はなやか関西の位置づけについては、現計画からの継続という主旨で、関経連との連携を継続していくことを示している。

東井委員

- ・ 「はなやか関西＝関西のコンセプト」ではなく、「はなやか関西などのコンセプトを用いながら、関西のブランドイメージを発信していく」ということではないか。

嘉住参事

- ・ ご意見を踏まえて表現を検討する。

橋爪委員

- ・ 文化振興における文化庁との連携体制の確立・強化において、「文化創造・交流プラットフォーム」の構築がこれからの重要なポイントになる。ぜひ具体的に進めてほしい。「はなやか関西・文化戦略会議」とプラットフォームとの関係性の整理については、今後、検討が必要になる。

北村委員

- ・ 「持続可能な観光」を掲げるなら、もっと SDGs を強く意識した表現を入れてはどうか。自然環境や伝統文化を守りながら、旅行者にもそのための取組を求める事で、「関西は SDGs あるいは持続可能な観光に熱心な地域である」というブランディング確立に繋げていけると考える。
- ・ 15 頁「(3)－①地域資源の活用に関する取組」ではスポーツアクティビティとともに、「みる」スポーツの視点も必要である。大阪、関西はサッカー、野球をはじめプロスポーツが集積しており、例えばベトナムはサッカーが一番人気である事からも、今後はインバウンドにおいてもスポーツ観戦の需要が増えると見込まれる。
- ・ 万博や IR は、観光にとって大きなチャンスとなるが、国際スポーツ大会や各種 MICE の誘致も引き続き推進していくという記載も必要ではないか。
- ・ 16 頁「2－(1) 効果的なマーケティングの実施」では、万博まで十分な時間もないため、仕組みの検討やデータ構築体制の確立だけではなく、もっと具体的なアクションを記載する事も必要ではないか。
- ・ 17 頁「3－(1) 生活習慣や文化の違い等に配慮した受入環境整備」では食のダイバーシティについては示されているが、東京オリンピック・パラリンピックにおけるユニバーサルツーリズムの受入体制整備（各種標示、サイン、ピクトグラム等）の成功（成果）を鑑みると、関西においても「誰もが気兼ねなく参加できる旅行づくり、観光地づくりに

向けてユニバーサルツーリズムへの取組み」という一文を入れてはどうか。

- ・ 推進体制については、観光本部にヒト、モノ、カネのリソース投入ができなければ他国との競争に勝てない。強力に進めていただきたい。

坂上座長

- ・ 表現の強化ができないか、というご提案である。

野口局長

- ・ SDGs の視点は大切であり、意識して記載した。まだ弱いということであれば、表現を工夫したい。
- ・ スポーツにおける「みるスポーツ」の重要性も強く認識している。野球やバスケットボール、サッカーなどの競技をコンテンツのひとつとして、取組を進めたい。
- ・ 大型 MICE については、あえて誘致は盛り込んでいない。目前にターゲットがあれば別だが、MICE には府県の地域間競争という側面もあり、広域連合としては打ち出し方が難しい。
- ・ ユニバーサルツーリズムについては補足したい。

坂上座長

- ・ ご意見を踏まえて表現を検討いただけるものと理解する。

岡部委員

- ・ 9 頁のコロナの影響で「次に海外旅行したい国・地域」はデータとして新しいものがあるのではないかと。
- ・ 現状の情報を共有するため、(コロナの影響による) 関西の受入体制の現状データが示せないか。例えば旅行会社や宿泊施設で、ビジネスをやめたり、休業しているところがどれくらいあるか。新しいことをやろうとしても受入体制ができていなければ、復旧までに半年や一年はかかる。
- ・ パブリックコメントにあるように、関西で観光・文化分野におけるスタートアップを支援することを位置づけてもよいのではないかと。日本ではこの分野を対象としたスタートアップ支援はあまりみない。今後の取組について、現在、誰が何をやっているか、誰でもわかるようなデータブックのようなものがあるとよい。例えば、こういう場面(段階)ではこういうところに相談すればよいということがわかるようにしたい。
- ・ 16 頁「2- (2) 新技術の活用」に関して、メタバース(仮想空間)や NFT(デジタル資産)等の分野がスピード感をもって動いている。コンテンツを含めて関西圏で考えてはどうか。ソウル特別市では、自治体として「メタバース・プラットフォーム」を構築、これをタッチポイントとしてリアルにつなげるなど、新たな公共サービスの提供を進めている。メタバースのホテルで買い物ができるという世界も現実化している。今後 3 年以内に国際会議はメタバースを通じて全てバーチャルになるかもしれない。新たなトレンドとして、キーワードくらいは入れておいてもよいのでは。万博の企画としても出てくるかもしれない。

嘉住参事

- ・ データは最新のものがあれば見直したい。
- ・ 受入体制の現状データについては、検討する。
- ・ メタバースについてはこれまで検討していない。キーワードとしての記載については検討したい。

坂上座長

- ・ 万博に向けた環境整備等に関して、仮想空間やデジタルへの対応はひとつの柱になるかもしれない。表現の仕方を含めて検討してほしい。

木ノ下委員

- ・ 加筆修正すべきことは特にない。
- ・ 既に関西は新しくつくらなくとも歴史文化のレガシーに根差した地域である。「万博をレガシーとして使う」ことだけでなく、以前からあるレガシーをいかに活用し、連携していくかという観点で、関西そのものがレガシーの宝庫であることをきちんとアピールしてもよいのではないか。今後、私に関わっている中之島などで様々なプログラムや記念事業があるが、レガシーのとらえ方としては、「既存のものを活用していく」ということもあるのではないかと思う。

坂上座長

- ・ 既存の歴史的蓄積を持った文化、あるいは観光を継承発展させるという考え方を軸とするのも、ひとつの手ではないかのご意見かと思う。

岩田参事

- ・ ご意見を踏まえしっかりと進めていきたい。

平井上席調査役

- ・ 来年度の文化庁関西移転を取り込んでいただき、ありがたいと感じている。
- ・ 将来像として文化・観光首都をアピールしているが、戦略では少しあっさり控えめに感じる。内容は結構だが、関西として文化レガシーを十分持つ地域であることを踏まえて、関西ならではの人材育成、文化支援があってもよい。文化庁としては、関西から優れたリーディングプロジェクトが生まれれば、それを全国に波及させたい。
- ・ 2022年は文化庁として特別な年であり、アピールの機会があれば、文化庁としても乗らせていただきたい。

坂上座長

- ・ 関西には歴史・文化的な厚みがあることをもう少し強くアピールしてもよいのではないかのご意見である。

角谷観光部長

- ・ 17頁「3-(3) 交通アクセス等の利便性向上」に関して、旅行者の分析はこれからだが、年末に検討会を開催した関西 MaaS 推進連絡会議がうまく機能すれば、GPS や IT 技術を生かしたデータ入手が可能になる。取組を推進したい。
- ・ ユニバーサルツーリズムについては、近畿運輸局としても取り組んできたところだが、さらに万博に向けて取組を推進したい。

- ・ 万博に向けては近畿運輸局でも事務方の会議を設置している。本計画をグランドデザインと協調させながら、観光の復活とさらなる推進に向けた行動を検討していきたい。
- ・ 連携も重要だが、地域の稼ぐ力を高めることも必要である。近畿運輸局としても引き続き、そうした視点も含めた協力・連携をお願いしたい。

坂上座長

- ・ 質問だが、万博における関西広域連合のパビリオンについて、中身の記述がないが、どんな状況なのか。また、その主体は。

野口局長

- ・ まだ詳しい内容は知らされておらず、中身はまだこれからという状態。記載のように、観光・文化のゲートウェイとして、周辺に出展する滋賀、兵庫、京都など府県のパビリオンの中核となる。大阪府・市は関西パビリオンの隣に大きなパビリオンを出展する。併せてwebの仮想パビリオンにもアクセスできるようにする。令和4年度に計画ができる。
- ・ 主体は今のところ広域連合ではないかと考えている。本部事務局の担当となっている。

坂上座長

- ・ 各府県もパビリオンを出展するなら、「one 関西」で求心力は大きくなる。こうした表現で十分か、検討してほしい。現在の表現では周辺環境はともかく、パビリオン本体のイメージがわからない。
- ・ 広域連合の構成府縣市以外は、万博にどのように参加する（できる）かわからない。広域連合に相談があれば、「こんな参加の方法がある」といった情報提供ができるようにしておけるとよい。

野口局長

- ・ 担当セクションと調整し、記載内容を膨らませることができるか検討したい。

北村委員

- ・ 21頁の「計画の目標」には、SDGsを意識した項目も入れるべきではないか。

東井委員

- ・ 「新時代の文化・観光首都」という言葉自体を発信することは考えていないのか。グランドデザインでは「KANSAI」をコア・コンセプトとして、これをアピールしていきたいと考えている。本計画では、はなやか関西よりもこの言葉を遠慮せずに発信すべきではないか。

坂上座長

- ・ ほぼ意見は出尽くしたと思う。本日は、例えば関西の歴史・文化などについて、特に表現を強化すべきところ、あるいはSDGsなどの新しいテーマに対して積極的な対応をしているという姿勢のアピール等など、多様なご意見・ご提案をいただいた。これらの意見を整理し、表現を検討していきたい。

### 3 その他

坂上座長

- ・ 今週中にとりまとめを行う必要がある。最終の文案について、座長と事務局に一任いただいてよいか。関西観光本部とは別途、表現等について調整していただく。

—各委員了承—

坂上座長

- ・ これをもって本委員会は終了とする。
- ・ 本日も長時間にわたり、貴重なご意見をいただき、感謝する。

#### 4 閉会

野口局長

- ・ 早朝にも関わらず、長期間にわたる活発な議論に感謝する。
- ・ 本日のご意見については、個別に問い合わせをさせていただくことがあるかもしれないが、宜しく願います。その上で最終の文案を座長と調整させていただき、とりまとめを行いたい。
- ・ それでは本日の会議はこれで終了させていただきます。

以上